

「シェディング」の可能性を心配する声も

三つ目に、安全性をめぐる報道が飛び交った自己増殖型の「レプリコンワクチン」への懸念。接種はモデルナやファイザーの mRNA ワクチンなど、5種類のワクチンから希望のものを打てる仕組みとなっている。処が 接種に行ったらレプリコンワクチンを打たれると、多くの人が思い込んでしまっている可能性があるとして指摘しています。

「レプリコンワクチンは、呼気や汗を通じて、接種者から未接種者へワクチン成分が伝播する“シェディング”の可能性があると噂されていることで、多くの人が不安視しています。とにかく実験データが少ないため、同ワクチン接種に反対している識者の意見もあります。しかし、シェディングに関しては根拠に乏しく、研究者としても“起こりえない”と断言はできないとしています。

一方、定期接種の伸び悩みを受け、尾崎会長は定例会見に於いて「インフルエンザワクチンは“毎年打っている”とおっしゃるのに…」と、インフルエンザワクチンを引き合いに出されますが、予防効果目的には、コロナワクチン接種も推奨しています。「ワクチンのメカニズムが全然違うので、一緒にして考えるはいけません。インフルエンザワクチンは、何十年も世界中で打たれてきて、重大な副作用が少ないことが分かっています。従って 副作用の点だけ見ても、まったく違います」と説明しています。

12月10日 東京都医師会長は定例記者会見の席上で、新型コロナウイルス流行に言及し 5年ぶりに最大9連休が見込まれる年末年始を前に、新型コロナウイルス流行に注意を喚起しました。(図1)

新型コロナウイルス感染症、ワクチン接種の現状

- ・5類移行後1年で死者 32,576人
- ・インフルエンザの15倍
- ・65歳以上が約97%

予想を遥かに下回るワクチン接種率

現状の接種率 : 対象者の10%前後
最終的な接種率の予想 : 対象者の20%程度 (当初の予定の半分)

主流になりつつあるXEC株

XEC株は感染伝播力が強い。
現在主流のKP.3に比べ、免疫逃避能がさらに高いとされている。
XEC株が主流になってくると、かなりの流行が予想される。

(図1)

定点医療機関あたりの患者報告数やゲノム解析を示す

今週発表された(11月25日~12月1日の) 定点医療機関あたりの患者報告数は1.35人と、前週の0.99人から増加。今冬に流行するという予測があり、基本的な対策について講演を行いました。

現在の状況をゲノム解析によると、新しい変異株のXECが42.9%に増えてきており、従来のKP.3からだんだん置き換わっていくのではないかと。この変異株はオミクロン系統だが、KS.1.1株とKP.3.3株の遺伝子組み換えによって生まれ、免疫逃避能が高いと言われている。

従来株に感染して抗体を持っている方も感染する可能性があり、本格的な寒さが到来して換気のよくない場所で密集する、年末年始で人の移動が激しくなる中